

## 平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

教育理念 人権教育と特別支援教育を推進しながらキャリア教育と聴覚障がい教育の融合を図って、我が国の平和と繁栄を支える人材を育成する。

教育目標 聴覚に障がいのある生徒の後期中等教育の充実をめざした教育を実践し、一人ひとりの生徒の自己実現に向けた教育を行う

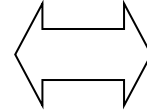
学校の使命 青年期の聴覚障がいのある生徒の持てる力を最大限に伸ばし、派生する課題にワンストップで対応する

校訓 「自立 規範 明朗」

学校スローガン「自ら学び自ら変わること社会に貢献する」

## 重点目標

- 1 生徒一人ひとりの実態に応じた進路指導・学力向上の充実
- 2 本人や保護者の思いに寄り添える学校づくり
- 3 ユニバーサルな教育環境の実現とより質の高い教育の提供



## めざす生徒像

- 活き活きた活力のある生徒
- チャレンジ精神にあふれた生徒
- 互いを助けながらともに生きる生徒

## めざす学校像

- 変化を怖れず挑戦する学校
- 地域に開かれた信頼される学校
- 安全で安心できる学校

## 2 中期的目標

## 「だいせんアクション6プラン」の着実な実施

## (1) 聴覚障がいのある生徒一人ひとりの実態に応じた進路指導・学力向上の充実 ⇒ 「学力向上」事業の更なる推進・だいせん Story

- 社会的自立に向けた生徒の意識改革と学校風土の維持発展（自律と自立心を養い実行力・実践力のある生徒・自己管理のできる生徒）
  - ・キャリア教育のさらなる充実に向け、デュアル実習の整理と発展を図る。
  - ・現場体験実習や就職面接会等を経験した先輩を「モデル」としたキャリア教育を継続発展させる。
  - ・キャリア教育と結びついた生徒指導の理念の徹底を図り、社会を意識した学校風土を一層安定させる。
  - ・生徒自治会活動での自己管理を徹底し、自己管理のできる生徒の育成をめざす。
  - ・クラブ活動では実績をさらに発信し、高校等との交流をより一層進展させ、平成 28 年度も近畿大会・全国大会の優勝をめざす。
- 「全ての教室で ICT」事業による情報保障をより充実させ、学力の定着・発展と国語力(特に書いて表現する力)の伸長を図る
  - ・タブレット型 PC を活用した自学自習・自己管理・自己表現の力をつけるための指導の充実を図る。
  - ・大学進学範囲を広げていく。新たに国公立大学合格者を出す。
  - ・タブレット型 PC を活用した自学自習・時間管理等をより定着させるために学校クラウドの活用を推進する。
  - ・伝統文化に触れる学習として俳句等の学習を継続的に行う。30 年度までに「だいせんの生徒からの発信（詩集・句集・抱負）」として生徒の思いを乗せた冊子を府立学校等に配布する。
  - ・各種資格検定等の受検を推進し、全生徒の資格取得をめざす。
- 「グローバル人材育成」事業を継続実施し、海外での学習も視野に入れた教育の充実を図る
  - ・国際交流を推進し、海外の大学等での学習の機会をもつ。学校経営推進費事業のまとめとなる平成 28 年度は、全国対象の報告会を実施する。
  - ・全国の先駆けとなる授業での ASL (アメリカ手話) 講座を継続し、平成 28 年度に設置した国際コースの充実をはかる。
  - ・Skype 等を活用した国際交流を深め、国際的視野をもつ生徒の育成を図るとともに、カリキュラムに基づく指導の検証を行う。
- 「キャリア教育充実」事業の実施と進路・就職指導のネットワークの充実
  - ・キャリア教育をより一層推進する。現場実習や見学会、高大連携等での校内外の活動とアフターフォロー体制をキャリア教育の視点から整理する。
  - ・これまでのキャリア教育の実践の中から今後の推進に役立つ事例をまとめる。

## (2) 本人や保護者の思いに寄り添える学校づくり

- 安全で安心できる学校教育活動の推進
  - ・緊急連絡体制や地震対応、不審者対応の充実を図る。引き続き学校評価等学校への意見をホームページ等も活用して声を届きやすくする。
  - ・28 年度 BCP (府立学校版業務継続計画) の作成、お願い手帳 (25 年度作成) 等活用した主体的な緊急時の避難指導の充実、また生徒会活動で、緊急時の対応や支援者としての役割についての取り組みを継続的に行う。
  - ・27 年度に引き続き、地域の清掃活動や校内美化の活動にキャリア教育の視点から取り組む。28 年度以降地域の美化活動を継続的に実施する。
- 保護者・地域から信頼され、一人ひとりの教職員がやりがいを持つ学校づくり
  - ・「個別の教育支援計画」の作成と活用を通じて保護者との共感と連帯感をつくる。
  - ・28 年度はタブレット型 PC 等 ICT 機器活用のさらなる充実を図り、家庭での反転学習・時間の自主管理を行う。29 年度自己管理・自己表現の情報ツールとして日常的な活用を図る。
- 地域への発信を高め、聴覚障がい生徒の青年期の課題等への支援ネットワークづくり
  - ・地域との関係を文化教室等で深める中、青年期の課題の啓発を図り、28 年度は近畿や府立の聴覚支援学校や府内の高等学校のコーディネーター等との連携をさらに深め相互交流を図る。
  - ・福祉避難所 (25 年度指定) を堺市から受けていることをふまえ、28 年度は地域に聴覚障がい生徒の緊急時の対応の啓発を実施する。29 年度には地域の防災との連携ネットワークを作る。30 年度は地域関係者との懇談会をもち、非常時の対応策の確認を行う。

## (3) 22 世紀の教育を眺望したユニバーサルな教育環境の実現とより質の高い教育の提供

- 「専門性充実・発展」事業を実施、学校組織としての専門性の向上(人材育成、地域支援の充実)
  - ・個別の教育支援計画の活用例や発達障がい等の継続した理解啓発を進める。
  - ・高大連携を進めるためのプロジェクトを実施する。専攻科卒業からの大学編入に対応したカリキュラムの検討を行う。
  - ・聴覚障がいのある生徒の二次障がいへの対応事例集を 30 年度作成し、合理的配慮への理解を高める。
- ICT 機器等(タブレット型 PC・文字情報システム・電子黒板等)を活用し、教職員の資質、専門性の向上(授業力向上、教材開発等)を図る
  - ・教職員一人ひとりの授業評価に基づく授業改善の工夫を図るとともに、タブレット型 PC を中心に ICT 機器を活用した実践研究の発信を継続する。
  - ・研究者と連携し ICT の活用等先行事例等を参考に、聴覚障がいのある生徒の情報保障、学力保障のモデルとして全国に発信し、聴覚障がいの理解啓発の一助とする。事例の集積を図り、科学研究補助事業に応募できる状況を作る。
  - ・情報リテラシー教育と合理的配慮の理解を高める講習を継続実施して、30 年度にまとめた冊子を発行する。
  - ・ASL (アメリカ手話) 授業、講習を継続するとともに、授業等での国際交流を推進し指導モデル化を図る。
- 職業学科である専攻科及び普通科の大学進学の充実を図る「高大連携」事業の実施
  - ・他校や大学、企業等との連携を図り、時代に応じた教育内容を充実する。
  - ・情報コミュニケーション科を中心に、タブレット型 PC 等を用いたネットワーク構築やマクロやソフト開発に向けた授業を実施し、27 年度に作成しただいせん聴覚高等支援学校自主開発ソフトの充実発展を図る。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>□ 平成 28 年 12 月に、生徒及び保護者、教職員を対象に実施した。回収率は、生徒 100%、保護者 94.3%、教職員 100%であった。</p> <p>□ 生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度と同様に、「授業で I C T 機器を使うなど、教え方に工夫をしている」85%であるが、「授業が分かりやすく、興味深い授業が多い」59%と低くなっている。</li> <li>・昨年度と同様に、「図書室は、読みたい本が充実している」57%であるが、「図書館をよく利用している」29%と低くなっている。</li> <li>図書室の貸出冊数は、昨年度から 1.8 倍に増加している。</li> <li>・昨年度と同様に、「生徒自治会活動に関心を持って参加している」41%と低くなっている。</li> <li>・「災害が起こった場合、具体的な行動が知らされている」昨年度 69%から 89%に上昇した。</li> </ul> <p>□ 保護者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どの項目もほぼ 90%前後であったが、「部活動は活発であり、学校生活を充実させるものとなっている」74%「学校からの配付物は、すぐに受け取っている」67%であった。</li> </ul> <p>□ 教職員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度と同様に、生徒指導に関して、生徒 81%、保護者 92%に対して、教職員 59%である。</li> <li>・昨年度と同様に、部活動に関して、生徒 64%、保護者 74%に対して、教職員 89%である。</li> </ul>	<p>第 1 回 平成 28 年 6 月 27 日 (月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災について、万が一に備えた備蓄品の準備が必要である。また、緊急時の聴覚障がい者を取り巻く情報保障のあり方は大きな課題である。具体的な方法が出てきていない現状で、学校は考えていく役割がある。</li> <li>・遅刻が多い生徒は就職の斡旋が困難になる。家庭と協力し、改めて指導をお願いする。</li> <li>・ルールをきっちり守るところが、日本のよいところだと考えられている。遅刻だけでなく、社会のルールを守ることが大切である。国際交流を進めるうえでも必要なので、十分に意識してほしい。</li> </ul> <p>第 2 回 平成 28 年 12 月 1 日 (月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際交流はよい取り組みだと思う。継続してほしい。海外交流は、治安面が心配である。交流先に確認するのもよいのではないか。</li> <li>・地震発生時の安否確認は、私の会社ではメールを登録しており、その訓練も実施している。</li> <li>・備蓄品については、何をどこまで準備するのか悩むところだが、例えば 1 日分の備蓄などと設定するとイメージしやすい。</li> <li>・遅刻については学校だけで対応するのは難しい。保護者と協力して取り組む必要がある。</li> </ul> <p>第 3 回 平成 29 年 2 月 24 日 (金)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書室の利用については、会社でも図書コーナーを設置している。社員同士で本を紹介し合ったり、感想メモを貼るなど工夫をしている。就労には一定の文章力が必要である。引き続き尽力いただきたい。</li> <li>・保護者の方の満足度が高いということで、取組みがきっちりされていると感じた。生徒の「興味深い授業」については、その授業がどう役に立つのかわからないと興味を抱かないが、その説明はなかなか難しい。</li> <li>・「2・6・2」という調査がある。集団の中で、2割は一生懸命、6割は普通、2割は動かないというもの。熱心な人を集めても「2・6・2」になるらしい。6割の人がどれだけ生徒自治会活動に関心をもって参加するかが、カギである。会社でもいろいろな委員会を運営しているが、工夫を考えている。</li> <li>・同窓会も最近は若い人が集まらない。個人でなく、みんなで考えることを伝える必要がある。</li> </ul>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">聴覚障がいのある生徒一人ひとりの実態に応じた進路指導・学力向上の充実</p>	<p>「学力向上」事業の推進</p> <p>(1) 社会的自立に向けた生徒の意識改革と学校風土の醸成(自律と自立心を養い実行力・実践力のある生徒)</p> <p>ア キャリア教育の徹底と学力向上・資格取得の推進</p> <p>イ 生徒指導体制の充実と自己管理の意識の醸成</p> <p>ウ 生徒自治会の活動の参加促進と部活動の推進</p> <p>(2) 「全ての教室でICT」事業の実施による情報保障を充実させ学力の定着・発展と国語力(書く力、表現する力・記録する力)の伸長を図る</p> <p>エ タブレット型PCを活用した授業実践と学校クラウドを活用した反転学習、自学自習の推進</p> <p>オ あらゆる機会を活用した国語力の向上</p> <p>(3) 「グローバル人材育成」事業の実施と海外での学習も視野に入れた教育の充実を図る</p> <p>カ 海外の豊学校等との交流</p> <p>キ 国際コースのカリキュラムの充実</p>	<p>(1)</p> <p>ア・本校のキャリア教育の特徴の啓発と共有</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会の実情を知る体験として就職合同説明会見学や実習体験等の取組みの充実</li> <li>・モデル化の推進として先輩から後輩が学ぶ機会の設定</li> <li>・生徒各自のタブレット型PCを活用した自学自習・自己管理・自己表現の力の伸長時間管理やメモをとる習慣の形成</li> <li>・タブレット型PC等ICT機器を活用したプレゼン体験によるコミュニケーション力の育成</li> </ul> <p>イ・社会を意識した学校風土づくりによる教員モデルの徹底とキャリア教育を基盤とする生徒指導体制の徹底継続</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学科長・学年主任会議での生徒指導部の一体化と組織的な指導体制の浸透</li> <li>・日常的な生徒指導の観点の共有</li> <li>・生徒の自己管理・自己責任の醸成</li> <li>・会議の効率化と運用及び目的の明確化</li> </ul> <p>ウ・生徒自治会の活動推進を図る日常的な学校生活における各係活動の取組みの発信</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域貢献活動の立案、推進</li> <li>・地域や校内美化等の具体的な活動の展開</li> <li>・キャリア教育の視点による係活動の整理と実行</li> </ul> <p>(2)</p> <p>エ・学校クラウドを活用した反転学習による自学自習の取組みの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上に向けたタブレット型PCや文字情報システム等を活用した「より分かりやすい」授業研究・教材研究</li> <li>・学校クラウドやインターネットを活用した新しい学びの形態の実践</li> <li>・校内実力考査の継続実施とその活用</li> </ul> <p>オ・全ての教科での国語力の伸長</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレット型PCを活用した表現力や記録する力を伸ばす指導実践</li> <li>・教科やホームルーム等でタブレット型PCに記録をとる、メモを書く等の工夫</li> <li>・俳句や詩等により表現する力の伸長</li> <li>・図書室の充実</li> <li>・高大連携をふまえた学力向上・資格取得に向けた教育課程</li> </ul> <p>(3)</p> <p>カ・Skypeを活用した海外の豊学校等との交流</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ASL(アメリカ手話)等の授業と講習会の継続実施と実践の発信</li> <li>・国際交流の推進及び海外大学への意欲喚起</li> <li>・大学関係者との連携推進</li> </ul> <p>キ・海外の学校との具体的な交流の実施と海外の聴覚障がい教育の現状把握</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海外の大学へのスタディツアーを実施</li> </ul>	<p>(1)</p> <p>ア・これまでのキャリア教育の実践の中から今後の推進の役立つ事例のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「モデル化」の考えをもとに先輩からの経験談や抱負や感想を聞く会を年5回開催</li> <li>・学校教育自己診断「希望する進路についての丁寧な説明」生徒満足度80%以上</li> <li>・自学自習・自己管理・自己表現のためのタブレット型PC等活用事例集の作成</li> </ul> <p>イ・学校教育自己診断における「生徒指導は適切である」生徒・保護者・教員ともに満足度70%以上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学科長・学年主任会議の定例化と協議内容の共有</li> </ul> <p>ウ・あいさつ週間、清掃活動の実施日数年間30日以上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育自己診断「生徒自治会活動」の生徒満足度50%以上</li> <li>・学校教育自己診断「部活動は学校生活を充実させる」生徒、保護者満足度70%以上</li> </ul> <p>(2)</p> <p>エ・学校教育自己診断「家庭での学習に積極的に取り組む」生徒満足度50%以上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科の電子教材化85%以上</li> <li>・ICT機器等の活用事例集の作成</li> <li>・学校教育自己診断「分かりやすく興味深い授業」生徒満足度70%以上</li> <li>・年3回の基礎学力考査の実施と個々の結果をふまえた指導</li> </ul> <p>オ・タブレット型PCの生徒活用状況調査の継続と活用度90%以上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育自己診断「目標を持って毎日の学習に取り組む」生徒満足度60%以上</li> <li>・大学等の進学に向けたチームによる指導の実施</li> <li>・俳句集等の作成</li> <li>・学校教育自己診断「図書室をよく利用する」生徒満足度50%以上</li> </ul> <p>(3)</p> <p>カ・Skypeを使った継続的な国際交流を2校で実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ASL(アメリカ手話)等の授業と講習を35回以上実施し、実践を発信</li> <li>・2大学関係者と連携</li> </ul> <p>キ・国際コースカリキュラムの検証</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スタディツアーの実施と交流手順書の作成</li> </ul>	<p>(1)</p> <p>ア・「今年お世話になっている先輩に挨拶したが、去年の先輩は今年関係ないので、そのまま通り過ぎた」など約50事例を集めた。生徒への指導に活用している。1月の支援学校進路指導部会で他の支援学校の進路担当教員等に紹介した。今後も積極的に収集して、問題点を整理し、聴覚障がいのある生徒の「キャリア発達段階・高等部において育てたい力」としてまとめている。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「先輩の体験を聞く会」、「デュアル実習体験発表会」、「先輩の就職活動を聞く会」、就職した企業から先輩が来校し「出前キャリア教育授業」、「教育講演会」を実施した。先輩からの話を聞くことによって、生徒は改めて在校中に学んでおかなければならないことを実感した。(○)</li> <li>・「希望する進路についての丁寧な説明」生徒満足度79%(○)</li> <li>・各学科、各教科から51事例を集めた「ICT活用事例集」を作成し、全府立高校、支援学校に配付した。(◎)</li> <li>イ・「生徒指導は適切である」生徒81%・保護者92%・教員59% 今後さらに、生徒の状況把握や現状に応じた生徒指導の方針などを教員間で共有しながら、進めていきたい。(○)</li> <li>・学科長・学年主任会議を定例化し、月1回開催した。「教員は、教育課題についてよく話し合っている」87%(○)</li> <li>ウ・朝のあいさつ運動は、15日のべ168人が参加した。合わせて行う予定であった周辺地域の清掃については、非常に行き届いており、需要がない状況であった。地域挙げての取り組みとして年2回実施された「仁徳陵清掃ボランティア」に、生徒、保護者、教員、同総会等、総計63人が参加した。(○)</li> <li>・「生徒自治会活動に関心を持って参加している」生徒41%(△)</li> <li>・「部活動は学校生活を充実させる」生徒664%、保護者74%、教員84%(○)</li> </ul> <p>(2)</p> <p>エ・「家庭での学習に積極的に取り組む」生徒52%(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科の電子教材化85%(○)</li> <li>・(1)ア再掲・「分かりやすく興味深い授業」生徒59%保護者93%「ICT機器の活用等教え方に工夫」生徒85%保護者93%(○)</li> <li>・年3回基礎学力考査を実施した。試験教科の単元項目ごとにデータ処理し、今後の指導に役立てている。「希望する進路について丁寧に指導」生徒79%保護者87%</li> </ul> <p>オ・「インターネットの活用」97%「クラウドの利用」78%(○)</p>

<p>聴覚障がいのある生徒一人ひとりの実態に応じた進路指導・学力向上の充実</p>	<p>(4)「キャリア教育充実」事業の実施と進路・就職指導ネットワークの充実</p> <p>ク 丁寧な進路指導と納得できる進路の実現</p>	<p>(4)</p> <p>ク・進学就職等の関係機関とのネットワークの窓口と学校組織との関係の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路講演会での講師招聘</li> <li>・組織的な進路指導体制づくりのための運営ノウハウの「見える化」</li> </ul>	<p>(4)</p> <p>ク・就職希望者と大学進学希望者の進路実現 100%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育自己診断「進路に関する必要な情報を十分提供」生徒満足度 75%以上</li> <li>・アフターフォロー体制の充実による卒業後3年間の離職率5%以下</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「目標を持って毎日の学習に取り組む」生徒 57% (○)</li> <li>・担任、教科担当と連携し、水曜日補習、夏季補習、受験対策補習、朝ドリル等の実施とあわせて、放課後、生徒の要望に沿った教科(苦手克服)の補習を行った。(○)</li> <li>・2月の俳句コンクールの応募時期に合わせて俳句作品を作成し、句集にまとめた。(○)</li> <li>・「図書室をよく利用する」29%「読みたい本が充実している」57%。図書貸し出し冊数 1.8 倍増(昨年度比)。生徒の興味関心に合わせた多様な本を揃え、手に取りやすいようディスプレイも工夫した。(△)</li> </ul> <p>(3)</p> <p>タイ国内の現在の社会情勢を鑑み、教育庁とも協議のうえ、今年度予定していたタイスタディーツアーを中止した。</p> <p>カ・筑波技術大学のアメリカ人のろう者と Skype を使って、アメリカ手話の交流を実施した。3月に本校教員が、台湾の国立台南大学附属啓聡学校(聴覚支援学校)を交流視察し、本校生徒との Skype 交流を実施した。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度 38 回実施した。11月の「学校経営推進費事業 グローバル人材育成推進計画 実践報告会」において、アメリカ手話の公開授業と話題提供、意見交換会を実施した。(○)</li> <li>・国内での実績のある連携先として、筑波技術大学から情報提供、助言等をいただいた。3月13日～15日に、台湾の国立台南大学附属啓聡学校(聴覚支援学校)、国立台南大学、志鋼金属株式会社(特例子会社)を交流視察した。次年度からの新たな交流先として、交流の計画を進める。(○)</li> <li>キ・次年度から実施できるよう、カリキュラムを整備した。(○)</li> <li>・上記によりツアーは中止となったが、大阪大学の未来戦略機構の助言を受け、新たな多文化共生プログラムの一つとして、3月に在日フィリピンの方を学校に招いて、バンブーダンスなどを通じた生徒との交流会を実施した。(○)</li> </ul> <p>(4)</p> <p>ク・就職希望、進学希望ともに、ほぼ決定している。課題のある生徒についても、懇談を持ちながら丁寧に進めた。今後も家庭との協力を大切にしながら進めていきたい。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「希望する進路について丁寧に指導」生徒 79%「進路に関する必要な情報を十分に提供」生徒 74%保護者 87%「進路指導は適切」保護者 92% (○)</li> <li>・本科 23%、専攻科 3%、全体 7% 本科の離職率が高いのは、年齢に比例する心の成長と考える。(現在の大学生の離職率は3割、中高校生は5割)本校には、卒業生本人、保護者、企業からの相談が多数寄せられ、互いの信頼関係の中で、早期に対応を行っている。馴染みの少ない支援機関に心を開きにくいという聴覚障がい者も多く、今後も職場定着のために、学校としてのフォロー体制の整備が必要である。(○)</li> </ul>
---	--	---	---	--

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">本人や保護者の思いに寄り添う学校づくり</p>	<p>(1) 安全で安心できる学校教育活動の推進</p> <p>ア 生徒自治会活動を軸にした校内外の活動の、キャリア教育の視点からの見直しとさらなる取組み推進</p> <p>(2) 保護者・地域から信頼され、一人ひとりの教職員がやりがいを持つ学校づくり</p> <p>イ 個別の教育支援計画、個別指導計画の活用を検討</p> <p>ウ センターの機能の充実、聴覚障がいのある生徒の教育相談等の支援機能の強化</p>	<p>(1)</p> <p>ア・より一層生徒自治活動を支援し、校内外の美化活動を継続</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通学路を含めた地域の安全への意識向上</li> <li>・「ハザードマップ」や「お願い手帳」、「BCP (府立学校版業務継続計画)」の活用方法の点検活動</li> <li>・キャリア教育の視点からの生徒自治会係活動の見直し</li> <li>・あいさつ週間、清掃活動の継続実施</li> <li>・仁徳陵の清掃活動への参加拡大</li> </ul> <p>(2)</p> <p>イ・個別の教育支援計画、個別指導計画の研修を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者懇談等での各担任からの各計画の意義の説明、理解の促進</li> </ul> <p>ウ・教育支援連携室 (D-センター) 等による広報活動の継続、学校紹介活動とその発信</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校のコーディネーター等との関係構築を深め、連携した取組みを実施</li> <li>・聴覚支援学校との関係強化及び継続した高校、中学校等への専攻科のある本校の特徴やセンター的機能についての周知</li> </ul>	<p>(1)</p> <p>ア・地域等への美化活動の継続実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育自己診断「生徒自治会活動に関心を持って参加している」生徒満足度 50%以上</li> <li>・学校教育自己診断「緊急時に関する対応の指導」生徒満足度 70%以上</li> <li>・「BCP (府立学校版業務継続計画)」の作成</li> <li>・「ハザードマップ」や「お願い手帳」を活用した生徒への防災意識の啓発活動を年 2 回以上実施</li> <li>・地域美化活動や清掃活動への生徒参加人数 50 人以上</li> </ul> <p>(2)</p> <p>イ・学校教育自己診断「懇談時に個別の教育支援計画についての説明」保護者満足度 90%以上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育自己診断「希望する進路について丁寧に指導」保護者満足度 70%以上</li> </ul> <p>ウ・センター的機能をより充実させるための学校訪問を継続実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関係府立高校訪問 20 校、中学校難聴学級設置校等中学校訪問 30 校以上</li> <li>・相談延べ件数 100 件程度</li> </ul>	<p>(1)</p> <p>ア・「学力向上」事業の推進 (1) ウ再掲</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「緊急時に関する対応の指導」生徒 89% (◎)</li> <li>・作成したBCPの充実のため、自身も聴覚障がい者である監督が制作した東日本大震災時の聴覚障がい者のドキュメンタリー映画鑑賞会、監督の講演会を開催した。また、PTAと合同で、防災備蓄品充実のための購入検討、非常食の試食、「さかい聴覚障害者防災ネットワーク」から聴覚障がいのある講師を招き、聴覚障がい者向け「防災マニュアル」「防災グッズ」「避難所シミュレーション」等の話を伺うなどの活動を行った。(◎)</li> <li>・春秋の防災訓練や生徒集会での校長講話等で繰り返し話をした。PTA役員会でも聴覚障がいのある教員から保護者に向けて「お願い手帳」の活用について説明し、理解協力をお願いした。(○)</li> </ul> <p>・「学力向上」事業の推進 (1) ウ再掲</p> <p>(2)</p> <p>イ・「懇談時に個別の教育支援計画についての説明」保護者 97%「個別の教育支援計画の内容が教育指導に反映されている」保護者 95% (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「希望する進路について丁寧に指導」保護者 87%「進路指導は適切である」保護者 92% (○)</li> </ul> <p>ウ・高校訪問 2 校、中学校訪問 15 校、電話・メール等、高校 3 件、中学校 13 件、相談延べ件数 54 件</p> <p>その他に、支援学校ブロック会議(府内 7 ブロック・広域ブロック)、高校支援教育整備事業会議、リーディングスタッフ会議、近畿聾学校地域支援研究会等にリーディングスタッフが出席し、近畿地区、大阪府内の支援状況についての情報共有、意見交換を行っている。各地域の教育委員会や高校等が集まるこれらの機会も積極的に活用して、聴覚障がいのある生徒や本校の教育について、参加機関へ情報提供、相談を行った。(△)</p>
--	---	---	--	---

<p>二十世紀の教育を眺望したユニバーサルな教育環境の実現とより質の高い教育の提供</p>	<p>(1) ICT機器等(タブレット型PC・文字情報システム・電子黒板等)を活用した教職員の資質、専門性の向上(授業力向上、教材開発等)</p> <p>ア ICT機器等を活用した授業実践のまとめ</p> <p>イ ICT機器等を活用した生徒のキャリア教育への理解推進</p> <p>ウ 公開授業週間や研究授業での反省アンケートや授業アンケートを活用した授業改善</p> <p>エ 国際的視野に立つ教育の提供</p> <p>オ 「高校・大学連携」事業によるキャリア教育の充実と進路の拡大</p>	<p>(1)</p> <p>ア・情報部の充実及びプロジェクトチームによる情報保障へのICT機器活用の研究や授業活用例のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ICT活用モデル教室での授業活用の推進</li> <li>電子黒板ユニット等の活用やタブレット型PC、文字情報システム等と連動した校内ICT活用体制の構築</li> <li>情報コミュニケーション科・研究部と連携した研究授業や公開授業の実施</li> <li>学校クラウドの活用と発信</li> <li>保護者への家庭学習の啓発と反転学習の充実</li> </ul> <p>イ・キャリア教育の視点での校内外の教育活動の整理と見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>キャリア教育と職業教育の違いについての研修、理解</li> <li>タブレット型PCを活用した時間管理・日程管理の徹底</li> <li>タブレット型PCを活用した話や連絡等の記録、メモの徹底</li> <li>各種検査の意義についての理解推進と保護者への説明の継続</li> <li>専攻科「ビジネス基礎」の内容充実</li> <li>生徒指導とキャリア教育の関係についての全職員の理解の徹底</li> <li>キャリア教育の観点による成績評価の徹底</li> <li>より一層の学力向上を図るための生徒が理解しやすい教科書の選定</li> </ul> <p>ウ・学校評価や公開授業週間での反省アンケート、授業アンケートの結果等からの各教員や教科会による授業課題の検討・改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校クラウドのより一層の活用の探求、新たな授業づくりのまとめ</li> <li>タブレット型PC等の活用による生徒のアクティブラーニングの推進</li> </ul> <p>エ・ASL(アメリカ手話)授業と講習会の継続実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Skypeを活用した国際交流の実施</li> <li>海外体験の支援と教員の派遣</li> </ul> <p>オ・高大連携プロジェクトによる筑波技大との連携、進学意欲向上の取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>専攻科における高大連携の具体的な検討、カリキュラム課題の明確化</li> <li>文科省担当調査官等との連携体制の構築</li> </ul>	<p>(1)</p> <p>ア・タブレット型PCの生徒活用状況調査による活用度90%以上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ICT機器等の活用事例集の作成、取組み実践20例以上</li> <li>学校教育自己診断「教員の授業でのICT機器の活用」保護者満足度90%以上</li> </ul> <p>イ・学校教育自己診断「職業教育における各種検査の結果の説明」生徒満足度70%以上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これまでのキャリア教育の実践の中から今後の推進の役立つ事例のまとめ</li> <li>学校設定教科「ビジネス基礎」の専攻科の内容検証・改善</li> <li>学校教育自己診断「分かりやすく興味深い授業」生徒満足度70%以上</li> </ul> <p>ウ・学校教育自己診断「教え方にさまざまな工夫」生徒満足度90%以上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>公開授業週間の各期の参観教員数のべ30名以上、授業アンケート20名以上のまとめ</li> <li>学校教育自己診断「毎日の学習」「家庭学習」への取組みにおいて生徒満足度50%以上</li> </ul> <p>エ・ASL(アメリカ手話)等の授業と講習を35回以上実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Skype等をとおした海外教員等と相互交流できる教員5人以上</li> <li>Skype等を使った海外の学校との授業交流・作品交流等を3回以上実施</li> <li>海外スタディツアーの実施</li> </ul> <p>オ・筑波技術大学と連携し、課題を整理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文科省、特別支援教育研究所等との意見交流</li> </ul>	<p>(1)</p> <p>ア・情報保障の充実、学力の定着・発展</p> <p>(2) オ再掲</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「学力向上」事業の推進(1)ア再掲</li> <li>「教員の授業でのICT機器の活用」保護者93%(○)</li> <li>「職業教育における各種検査の結果の説明」生徒73%(○)</li> <li>「学力向上」事業の推進(1)ア再掲</li> <li>昨年度より専攻科I年で「ビジネス基礎」、今年度よりII年で「ビジネス応用」を実施した。卒業後の就労を見据えた支援に関わる全般的な学力向上をめざした。教科担当者からは習熟度別に行うほうが学習効果があるという意見もあった。引き続き検証・改善を進める。(○)</li> <li>情報保障を充実させ学力の定着・発展</li> </ul> <p>(2) エ再掲</p> <p>ウ・「教え方にさまざまな工夫」生徒85%(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(前期)公開授業週間、研究授業の参観教員数のべ158人、授業アンケート69枚</li> <li>「目標を持って毎日の学習に取り組んでいる」生徒57%「家庭学習に積極的に取り組んでいる」生徒52%(○)</li> </ul> <p>エ・「グローバル人材育成」事業の実施(3)再掲</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スタディーツアーの中止により、当初の計画とおりの実施は困難となったが、Skypeについては、筑波技術大学と連携し、大学の聴覚障がいのあるアメリカ人の方とアメリカ手話でコミュニケーションを楽しんだり、教育旅行先と学校をつないで、現地の自然学習の講義を学校でも受けるなど活用が広がっている。(○)</li> <li>海外の学校との交流については、10月に海外文化紀行で日本を訪問した韓国の聾学校生徒と直接交流することができた。4学科に分かれて本校の授業に参加し、お互いに制作作品を交換した。生徒は翻訳アプリ等を活用して、主体的にコミュニケーションをとっていた。3月に本校教員が、台湾の国立台南大学附属啓聡学校(聴覚支援学校)を交流視察し、本校生徒とのSkype交流を実施した。(○)</li> <li>聴覚支援学校専攻科から大学への編入については、主な編入先と考えられる筑波技術大学や特別支援教育研究所等と個別に状況を聴き、確認をした。大学への編入制度については、同じ履修科目を持つ専門学校等からの編入を想定したもので、高等部専攻科からの大学編入については、現状として単位認定等の細かな調整、検討が必要との話を聞いている。(○)</li> </ul>
---	---	--	--	--